

帝キネ現代映画
マイエル・フェルステル

原作者 桑折晴比古
脚色者 热山（學友）
監督者 侯爵夫人
撮影者 博士萬助

主要役割

上月内後郎一史
竹田千太郎
片岡高嶺樹鶴子登美松

けい子

執事古津

アパートの主人

その妻

解説

ある。

凌樹高嶺尾崎木川
岡島洋良静芳美松

好右衛門

登見子

節子

松

略筋——「苦様が町の學校にお入りになる」——断言した會話さ共に昔ながらの城廻であります。晴比古は、深く窓に育つた小鳥が自由な天地に逃げたかの様に、学生々活に這入つたのであつた。晴比古は、使丁の萬助、アパートの娘めい子等、總べては晴比古を頼らかな天地へ誘導じた。けい子は晴比古にそつて無上の友達であつた。日曜日、晴比古はけい子と共に博士萬助はドライブに、川遊びに、樂しい日を過ぎた。晴比古はけい子は晴比古の父の危篤を知らせる電報であつた。それには病める博士はアパートに残して、悄然と晴比古は開脚踏み花壇で花を植つて居た。新しく優勝の記念多き數々よ。

寫真——「思ひ出」帝キネ竹内俊一作品

